ふわっと学ぶ タロットカード

夏休みに新しいことを始め損ねたあなたに、西洋の歴史や文化が詰め込まれたタロットカードをご紹介。タロットカードをふわっと学んで、西洋の浪漫をふわっと感じよう。　（みずおにぎり）

タロットカードとは

もとは14世紀後半のイタリアで生まれ、賭け事や娯楽に使用されていた貴族の遊戯用カード。当時は手描きの豪華な芸術品だった。時代を経てイタリアからヨーロッパ各地へ、貴族から庶民へと広まり、古代エジプトや聖書、天体など様々な文化や学問の影響を受けて解釈され、占いへと結びついた。

大アルカナと小アルカナ

現代で最も流通しているタロットカードは、20世紀にアーサー・エドワード・ウェイトが確立したもので、ウェイト版タロットカードと言われている。このタロットカードは78枚１組で、22枚の大アルカナと56枚の小アルカナに分けられる。「魔術師」「死神」など、一般的にタロットカードと聞いて思い浮かべるのは大アルカナのカード。小アルカナはトランプの原型で、「ワンド（棒）」「カップ（杯）」「ソード（剣）」「ペンタクル（金貨）」の４つのスート（グループ）に分かれて14枚ずつあり、それぞれクラブ・ハート・スペード・ダイヤに対応する。大アルカナは人生の重要な出来事や長期的な流れなど大きなこと、小アルカナは日常的な出来事や体験を示す。

アルカナはラテン語で「秘密」「神秘」

Column 正位置と逆位置

占うときに重要なのがカードの向き。カードを並べたとき、占う側からみてカードが正しい向きなら正位置、逆さまなら逆位置となり、意味が変わる。

例：

＜正位置＞ 中庸⇒勇気


＜逆位置＞ 不足⇒臆病 過剰⇒無謀

正位置は中庸を示し、逆位置は過不足を示す。ここでの中庸は両極端でないことであり、古代ギリシアの哲学者であるアリストテレスが提唱した。例えば、勇気が不足すれば臆病、過剰であれば無謀となる。

小アルカナ

紀元前450年頃、古代ギリシアの哲学者であるエンペドクレスは、万物は火・水・空気・土の４元素からできているという四元素説を唱える。この四元素説に由来し、小アルカナのワンド・カップ・ソード・ペンタクルの４つのスートはそれぞれ火・水・空気（風）・土に対応している。

また、各スートはY・H・V・Hのヘブライ文字に対応している。このようなヘブライ文字は子音のみを表し、そこに母音記号である点や線が書き加えられることで発音できるようになる。YHVHは母音記号が配置されると「ヤハウェ」と読むことが多い。これはユダヤ教やキリスト教の聖典である聖書に登場する創造主の名であり、YHVHの４文字は神聖四文字（テトラグラマトン）と呼ばれる。

יהוה　⇒　יַהְוֶה
ＹＨＶＨ　⇒　YaH VeH

ワンド

――心に芽生えた情熱によってスタートした人物が、様々な試練を乗り越えて成長していく。

「意思」「発想」「目的」「理想」



カップ

――愛が芽生えたことで喜びや悲しみを経験し、最高の幸福を手にする。

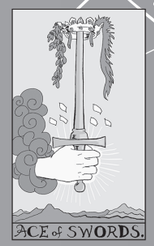
「感情」「心」「愛」「感性」



ソード

――知性を働かせて情報を分析し、使いこなしていくことで生まれる葛藤を描く。

「情報」「思考」「分析」「判断」



ペンタクル

――生きるために労働することで手にする成果や損失を巡る物議を描く。

「現実的な物事」「物質」「金銭」



各スートの14枚は、１～10までの数字のカード＋キング・クイーン・ナイト・ペイジ（小姓）のコートカード。コートカードはそれぞれ四元素の火・水・風・土に対応している

はみだしすてーじ　もちもちもっちゅりん ⇒いちご味を食べ損ねました

（理・院　えむかわ）
（コンプリートしましたか？；編）

大アルカナ

0 愚者　冒険心と好奇心のかたまり。

――小さな荷物だけを手にした若者が、無知ゆえに恐れを知らずに進んでいる。手にした薔薇や太陽、犬の白さは彼の純粋さを象徴し、服の花柄と頭につけた羽根は自由を表す。左は過去を、右は未来を暗示するなかで、若者は左方に向かって明るく進む。彼の一歩先は崖の下。白い犬は彼の冒険を促しているようにも、引き止めているようにもみえる。



正位置
「自分らしく」「自由」「大胆」



逆位置
「無防備」「無謀」「地に足がついていない」

X 運命の輪　この世の全てに関わる宇宙の法則。

――四隅で聖書を広げているのは獅子・鷲・天使・牡牛。彼らはそれぞれ四元素の火・水・風・土を表す聖人や聖獣たちであり、あたりには灰色の雲が立ち込めている。運命の輪の周囲では、裁きの剣を持つスフィンクスが頂点に座り、蛇が下降し、古代エジプトの冥界の神であるアヌビスが上昇してサイクルを示している。スフィンクスは不変の真理、蛇は混沌や波乱、アヌビスは復活を象徴する存在。この先一体何が起こるのか。万物は流転する。

逆位置
「不運」「挫折」「運命に翻弄される」





正位置
「幸運」「チャンス」「運命的な出逢い」

輪の中心には四元素を示す記号が描かれ、輪の外側には「T・A・R・O」と神聖四文字が記されている。「T・A・R・O」はアナグラムによって意味が掛けられており、TORAは「律法」、ROTA「車輪」、ATORは「エジプトの愛と豊穣の女神ハトホル」、ORATは「語る」、TAROは「タロット」。これらを組み合わせると「TORA ROTA ATOR ORAT TARO（律法という車輪はハトホル女神の神託を語り、それがタロットである）」。

XVI 塔　価値観の崩壊。

大アルカナで最も悪いとされるのは「死神」や「悪魔」ではなく「塔」

正位置
「崩壊」「破綻」「革命」



逆位置
「ゆっくりとした崩壊」「動揺」「浄化」



――周囲に建物が見られないほど高い崖の上に築き上げられた塔はバベルの塔のよう。天にまで届かせようとしたこの塔は神の怒りに触れる。激しい雷が権威の象徴である王冠に直撃し、天を目指していた二人は投げ出されてしまった。右の人物はそれでもなお自身の王冠を手放さない。飛び散った火花は22個。大アルカナのカードの数である22は「完成」を意味する。つまり22個の花火はこの絵が結果であることを示す。一方で、世界の終わりは世界の始まり。浄化は必要に応じて起こるものである。

はみだしすてーじ　手持ちファンって役に立つのでしょうか ⇒涼しい風が来る気がします

（文・１　とめ）
（暑い空気がかきまわされて逆効果という説も；編）